

情報解禁：即時



世界初・世界最大級の AI 映画祭

WORLD AI FILM FESTIVAL 2026 in KYOTO 開幕！

**豪華ゲストがパープルカーペットに登場、
初代グランプリは『This is Me』に決定
!!**

2025年4月、フランス・ニースにて開催され、世界に衝撃を与えた世界初・最大級のAIに特化した国際映画祭「WORLD AI FILM FESTIVAL（以下、WAIFF 読み：ワイフ）」。

この度、インターナショナル・パートナーとして、2026年3月12日（木）、ロームシアター京都にて世界初・最大級のAI映画祭「WORLD AI FILM FESTIVAL 2026 in KYOTO（以下、WAIFF 2026 KYOTO）」を開催いたしました。

WAIFFは、元Apple Computer（現Apple Inc.）欧州社長およびグローバル最高執行責任者（COO）を務めたマルコ・ランディ氏によって創設された、“映画と人工知能の交差点を探求する”ための革新的な国際映画祭です。2025年4月に行われた第一回大会（フランス・ニース）では、53の国と地域から1,500作品以上ものAI映画が殺到。会場には2,000名を超える観客や関係者が詰めかけ、初開催にして世界的な反響を巻き起こしました。

この成功を受け、2026年4月にフランス・カンヌでの第二回本開催が決定しております。そこに至るまでの道程を「Road to WAIFF Cannes 2026」と称し、ブラジル（サンパウロ）、韓国（ソウル）、中国（無錫）、そして日本（京都）の4都市で予選となる映画祭を開催。各国で選出された優秀作品のみが、映画の聖地・カンヌで開催される本大会「WAIFF Cannes 2026」へと招待される予定です。2026年の日本開催においては、短編・長編映画に加え、SNS向け縦型マイクロシリーズ、広告映像、脚本+AIティザーなど、時代の最先端を行く幅広いカテゴリーを設置。なお、WAIFF本体はフランスのアルプ＝マリティーム県と、欧州における「AI・アート・社会課題」の研究機関であるEuropIA Instituteの主導により運営されており、技術革新と芸術表現の架け橋となるべく、その規模と精度を拡大し続けています。

本日遂に、WORLD AI FILM FESTIVAL 2026 in KYOTO が開幕！

国内外の豪華ゲストが登場した「パープルカーペット」および、全 431 作品のエントリーから選ばれたファイナリスト 39 作品の頂点を決める「セレモニー」を実施いたしました。是非、ニュースとしてご掲載いただけますようお願いいたします。

【WORLD AI FILM FESTIVAL 2026 in KYOTO 開催

概要】

イベントタイトル	WORLD AI FILM FESTIVAL 2026 in KYOTO
内容	World AI Film Festival (WAIFF) は、人工知能 (AI) ツールを用いて制作された映像作品や脚本を展示する国際映画祭
タグライン	WORLD AI FILM FESTIVAL 2026 in KYOTO 歴史と文化が幾層にも積み重なった国際文化都市・京都から、映画と AI の対話を世界へ向けて 発信します。サイレントからトーキーへ。モノクロからカラーへ。そして今、人間と A による新たな表現の時代へ。京都は、日本映画文化を育み、支えてきた都市のひとつです。千年にわたる文化の蓄積と創造の歴史を背景に、WAIFF 2026 in KYOTO は、映画革命の次なる舞台として、映画と物語の未来を世界へとひらいていきます。
開催日時	2026 年 3 月 12 日 (木)~13 日(金)
開催場所	コンペティション会場: ロームシアター京都「サウスホール」 ガラパーティー会場: 平安神宮会館 作品上映会場: ロームシアター京都「ホワイエ」
主催	WAIFF JAPAN 実行委員会
アンバサダー	伊瀬茉莉也(声優) KENTO MORI (ダンスアーティスト) MEGUMI (俳優、プロデューサー)
審査員	<ul style="list-style-type: none">● 和田亮一 (Ryoichi Wada) / TOKYO EPIC 代表取締役 CEO、WORLD AI FILM FESTIVAL (WAIFF) 日本代表● 櫻井大樹 (Taiki Sakurai) / 株式会社サラマンダー (Salamander Pictures) 代表取締役社長・アニメプロデューサー・脚本家● 齋藤優一郎 (Yuichiro Saito) / スタジオ地図 代表取締役プロデューサー● 二見文子 (Ayako Futami) / TVCM コーディネーター・通訳・翻訳家● 乙一 (Otsuichi) / 小説家● 秦建日子 (Takehiko Hata) / 小説家・脚本家・映画監督● 中島信也 (Shinya Nakajima) / CM ディレクター、東北新社クリエイティブ・アドバイザー、武蔵野美術大学客員教授● 遠藤久美子(Kumiko Endo) / 作家、ビジョナリークリエイター
来場者	<ul style="list-style-type: none">● 来賓: 別所哲也 (俳優 / 国際短編映画祭ショートショート フィルムフェスティバル & アジア(SSFF & ASIA)代表)● 本国 WAIFF 関係者● マスコミ各社● アワード受賞者● 協賛関係者・関係者● 一般参加者
コンペティション部門 および アワード	ベスト AI フィルム賞 (Best AI Film) ベスト AI アニメ賞 (Best AI Anime) ベスト PocketANIME 賞 (Best PocketANIME) ベストシノプシス+AI テイザー賞 (Best Synopsis AI Teaser) ベスト AICM 賞 (Best AI Commercial)

Japan Best AI Film

審査員特別賞

※該当なし: 審査の結果、いずれかの賞について「該当作品なし」とする場合があります

◆【3月12日（木）@サウスホール】スケジュール

13:30-14:30 パールカーペットセレモニー

参加者：別所哲也 / MEGUMI / 伊瀬茉莉也 / KENTO MORI など

15:00-15:45 オープニングセレモニー

オープニングアクト（剣伎衆かむろ/島口哲朗）、主催者挨拶、来賓挨拶

MC：桂三輝 / 玉川恵

15:45-16:45 セッション

オープニングセッション「映画、アニメ、CM——今、表現者はAIとどう向き合うべきか？」

生成AIの登場で、映画、アニメ、CMなどのクリエイティブは劇的に変化しつつあります。そこでオープニングセッションとして、WAIFF 2026 KYOTOの審査員と、識者に登壇いただき、それぞれのAIとの向き合い方、AIが変えて行く世界とは？についてのメッセージをいただきました。

登壇者：和田亮一 / 櫻井大樹 / 齋藤優一郎 / 二見文子 / 秦建日子 / 中島信也 / 伊瀬茉莉也 / MEGUMI / 宮台真司 / Douglas Montgomery など

MC：横里隆

17:00-18:30 授賞式（アワード）

ベストAIフィルム賞、ベストAIアニメ賞、ベストPocketANIME賞、ベストシノプシス+AIティザー賞、ベストAI CM賞の5部門の受賞作品とJapan Best AI Filmを発表。また、KENTO MORIや小林未郁の特別パフォーマンスを実施。



■「パープルカーペット」に別所哲也、MEGUMI ら登壇

会場には、WAIFF のイメージカラーとなるパープルカーペットが敷き詰められ、会場はシックながらも華やかな雰囲気包まれた。本映画祭実行委員長の和田は「今日は天気も晴れて、まさにフェスティバル日和。ここ京都で開催したのはすごくたくさんの意味があります。映画の街としていろんな歴史と文化を作ってきた京都で、元々は南フランスのカヌヌやニースで開催されていた WAIFF をやれることはすごく光栄に思っています。今日の開催に至るまで、ものすごく大変なことがありましたが、本当にものすごくたくさんの人たちに支えがあって、今日ここに至ることができました。今日が新しい最初の第一歩になったらいいなと思ってます。」と呼びかけた。

さらにこの日は国際短編映画祭ショートショートフィルムフェスティバル & アジアの代表を務める俳優の別所哲也も参加。「私たちの映画祭にもたくさんの AI の作品が集まり始めています。まさに映画は技術、テクノロジーとともに生まれたわけですが、今日、AI の映画祭が産声を上げるということでお祝いに駆けつけました」と語った。

またケントが「僕は世界平和のワンステップを踏むべく人生を賭けているんですが、このフェスティバルから、一緒に手をつないで一步を踏み出せたらと思っておりますので、本当にワクワクしています」と語ると、伊瀬も「わたしは声優としてデビューしてから約 20 年間、本当にいろんなキャラクターの声を担当させていただきました。今、声優業界の中でも、日々、皆さんが議論をし、これからの未来に向けて声優業界、アニメ業界など、どうい風に芸術の分野で話し合っている状態です。今回の WAIFF でたくさんの知見を持った方とディスカッションできるということで、わたしもたくさん学ばせていただきたいと思ひます」

MEGUMI も「今日は京都で開催となりますが、この歴史深い場所で映画祭が開催できることはとても素晴らしいことだと思います。わたしたち日本人の強さを、AI とともに可能性を広げながら、エンターテインメントの世界を海外に届けていけたら」と呼びかけた。

■オープニングセッション「表現者は AI とどう向き合うべきか？」

パープルカーペット終了後は関係者のあいさつが行われ、その後「映画、アニメ、CM——今、表現者は AI とどう向き合うべきか？」と題したオープニングセッションを実施。

そこでまず和田が「僕は AI を使うアニメスタジオも立ち上げています。だからこそ AI と徹底的に向き合い、一緒につくっていくパートナーでもある。そこはしっかりと勉強して、僕らが一番最初に AI を使いこなすスタジオでありたいなと思っております」と語ると、齋藤も「日本のアニメーションって手描きをはじめとした、ものすごく伝統的なつくりかたでやってきたので。著作権の問題も含めて、AI が作品をつくるということの意義や、たくさんの議論がある状況。自分がこういう場所に立っていいの、という葛藤を持ちながらこの場におります」と正直な思いを吐露しつつも、自身が参加している米国アカデミー協会のアニメーションブランチという支部での議論について「そこではアカデミーのエントリーのルールをどうするか、ということをお話しているんですが、そこで AI について議論になるんですが、最終的にはアニメーションとは何か、映画とは何か、ということを中心とした話し合いをずっと続けています。日本ではなかなかそういう議論をする場が業界にはないんですが、今回審査という立場をいただいたので、そこで感じたことをオスカーのメンバーにも共有し、議論を進めていきたいと思ひます」と世界の潮流について語るひと幕も。

また中島は「制作方法としての AI というものについては色んな議論があるんですが、我々の社会の広告について言うと、受け手の方がもうすでに AI を使ってるわけです。つまり受け手の人が世界一賢くなっている。理屈とか情報といった左脳の領域は、皆さんが AI を使ってしまった。こちらからの情報は受け付けてくれなくなる。ですから CM にはもっと右脳というか、感性に訴えかけるものが求められるようになっていく。最終的にどうい感性を共有できるか、というところはこれからも変わらないし、ますますそこに行くだろうなと思ひますね」と指摘した。

そして宮台は「僕はイメージフォーラム・フェスティバルというアバンギャルドな映画祭で 50 本くらい審査していたんですけど、その中に何かと似ていないものは大体毎回 1 本しかない。50 本のうち 49 本は、岩井俊二風とか、三池崇史風とかそんなのばかり。だか

ら著作権を巡ってギャーギャー言うのは馬鹿。人間も AI も変わらない。データを収集して、皆さんの多くに刺さるものを出しているだけなんです。じゃあポイントはどこにあるのかっていうと、人間にしか作れない世界観があるのかということ。なので AI が作れるようなものを単に作っている人は、プロであれ素人であれ全部 AI の自立的な表現に置き換えられて然るべき。すべての表現者がそのことに危機を覚えてほしいと思います」と警鐘を鳴らした。

また「声優業界でもこの AI というものが本当に波が押し寄せてきているなというのを日々実感しております」と語る伊瀬は「この 2 週間ぐらいで AI の作品をたくさん見させていただいた時は、本当にすごいな、見分けがつかないな。声のお芝居だってまさか AI が喋ってるとは思えないなと。境目がないんじゃないかと思っていたんですけども。でもやっぱり生身の人間の発するエネルギーや熱量というものに目を奪われてしまって。この違っていて何なんだろうと自問自答しましたし、AI が生み出せるものや、生身の人間でしか伝えられない思いなどはあるのかなと。私も日々、色々と考えながら試行錯誤しながら、これからの未来に向けてどういう風に向き合っていけるのかなと考えていきたい」と正直な思いを語った。

さらにダグラス・モンゴメリーは「クリエイターや社会が AI に対して何を考え、どう向き合うべきか。私からの答えはたった一言、「Embrace it! (受け入れろ)」。AI を拒絶するのではなく、前向きに使いこなすことが不可欠だと考えています」と語ると、MEGUMI も「わたしはドラマや映画などの実写を作っているんですけど、東京ってロケが難しく。それとか予算や権利の点で、諦めることがめっちゃ多いんです。例えば宇宙だったり、渋谷のスクランブル交差点で撮りたいとか、いろんなことを入れられたらいいのにな、という会話はあるんですけど、まあ無理かといって終わってしまう。実写で AI をやっている人はそんなにいないんですけど、今日いろいろな方との出会いがありましたので。ぜひ私がやっている実写の世界にも AI を取り入れて、今まで我慢していたことが実現できたらめっちゃいいんじゃないかなと思いました」と期待を込めた。

■全 5 部門の受賞作品および「Japan Best AI Film (グランプリ)」発表

そしてステージでは、授賞式を実施。厳正なる審査を経て選出された各部門の最優秀賞（ベスト作品）および審査員特別賞が発表された。まずは「ベストシナプシス+AI ティザー賞」から発表。受賞したのは「Samurai Egg」の中谷学さん。「この作品はプロデューサーが 20 年前に考えた企画で。当時は技術的な問題、予算的な問題でつくれなくて。20 年間ずっとお蔵入りになっていました。それが今になって AI を使うことで実際に形にすることができた。AI はクリエイターの敵だという考えの人もたくさんいますし、それはそれで一理ありますが、もう AI は来てるので、それを無視するわけにはいかないと思っています。少人数で、個人の表現力を最大限に生かせるのが AI だと思っています。なので今後もどんどん続けていきたい」と語った。

続いて「ベスト AI CM 部門」の発表に。「Freedom Ramen 賞」はあぎさんの「The Bowl That Changed the World 世界を変えた一杯 -FREEDOM RAMEN-」。「この映像の中には AI じゃないとできない表現というのはあえて入れておりません。実際の制作現場で使えるようなクオリティで、かつこの 2 人だけでは予算的にも絶対に作れないような画角、あとは特殊メイク、時代背景、カメラワークなど、AI でこういうことができたらいよいよねというのをふんだんに取り入れました。今回それが分かりやすいストーリーとして皆さんに伝われば本当に嬉しいと思います」と喜びのコメントを寄せた。

そして「ベスト AI CM 賞」を受賞したのは、THE ONE AI LAB.の「SWETOS」。プレゼンターの中島信也は「審査の時は分からなかったんですけど、ふたを開けてみたら昔の仲間。本当にビックリしました」とコメント。THE ONE AI LAB.さんも「とにかくみんな汗をかきました。一カ月ぐらいの制作期間でしたが、ものすごいクレジット料金がかかってしまいました。だけどそれよりもここに立てたということが本当にうれしくて。本当に汗を流して良かったなと思いました。結局 AI を使うのは人間なんじゃないかなと思います。誰もがクリエイターになれるし、ディレクターにもなれる。ですから僕たちも皆さんに負けられないように頑張りますので、一緒に切磋琢磨していきましょう」と会場に呼びかけた。

さらに「ベスト AI Pocket Anime 賞」を受賞したのは石原 健二さんの「ロスト・トイ・レクイエム」。石原さんは都合により残念ながら欠席となったが、プレゼンターの和田氏からは「ダークファンタジーなんですけど、その中にしっかりと哀愁とか、いろんな物語が隠れ

ていて、非常に観やすく素晴らしい作品。続きが観たくなる作品でした」という講評が送られた。

続いて「ベスト AI アニメ賞」の発表となり、平田茉莉花さんの「This is Me」が選出された。平田さんも「この作品をつくるときに思っていたことがあって。人って型をめっちゃ欲しがると思うんですよ。自分もそれをされて嫌だなと思っていました。でも説教をされるのは意味がないと思うし、別にされたくもない。だったらアニメーションで、葛藤してる子を描いて、みんなが綺麗に生きようとせずに、自分のありのままに生きられれば幸せなんじゃないかなと。そういうことを表現したくて作った作品です」と本作に込めた思いを力強く語った。

「ベスト AI フィルム賞」に選ばれたのは、新野卓さんの「Re:right」。「作品のテーマとして『甘い嘘、苦い真実』というのがあるんですが、まさに AI 全体でそうしたものを手に入れてしまったんだと。新しい力も使い方によって良くも悪くもなるとしています。AI はすごいスピードで私たちをどんどん追い越していき、わたしたちはあっという間に置いてかれてしまう。だからこそ今一度立ち止まって、何で作るのか、何を作るのかを考えて。それもなかなか答えは出ないですが。だからこそこういった映画祭で、いろんな人たちとの対話を通じて、より一層泥臭く創作についてもっともって考えていきたいと改めて思いました」と語った。

そして最後にグランプリとなる「Japan Best AI Film 賞」の発表に。選ばれたのは、平田茉莉花さんの「This is Me」。同作は「ベスト AI アニメ賞」と並び 2 冠となった。発表を聞いた瞬間から、涙が止まらない様子の平田さんは、「本当に素晴らしい賞をいただけてとても嬉しいです。AI だから表現できることって結構あると思うんですけど、それとはなるべく関係なく、普通に誰かに感動してもらいたくて。普通に誰かに明日も生きてほしいなと思ってもらえればいいなと思って作ったんですけど、こんな賞いただけて本当にビックリです。本当にわたしでいいんですか、という気持ちになってしまうんですが、恥ずかしくないものを作ったつもりです。ありがとうございます」と感謝の思いを述べた。

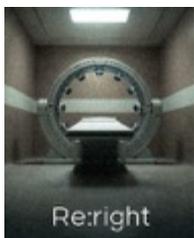
受賞作品下記の通り。審査員コメントは公式サイトに記載。

Japan Best AI Film

1		This is Me
		平田 茉莉花
		本作品は、ジェンダーアイデンティティの揺らぎと、社会が求める「分かりやすさ」の乖離を、ファンタジーとリアリズムを融合させた独特の視覚表現で描く短編アニメーション。

ベスト AI フィルム部門

ベスト AI フィルム賞

2		Re:right
		新野 卓
		『苦い真実』という父の遺言を捨てるため、自らの手で過去を書き換えた女が直面する、美しくも残酷な自己救済の記録。 近未来の記憶改変技術を背景に、「愛する者の言葉」という呪いと、逃れられない喪失の矛盾を描いたサイコロジカル SF。

審査員特別賞（和田亮一）

3		旅の続きは、あの世でまた / See You on the Other Side
		来夢 ライト
		死にたい漫画家・桃絵と、死ねない死神が織りなす 9 分間のロードムービー。「次に死にたいと思った時、お前の魂をもらおう」。死神の契約から始まる奇妙な旅の中で、やがて契約は「約束」に変わり、絶望の青だった世界は温かなオレンジへと色づいていく……。 「AI で作ったものは虚像なのか？ フィクションは偽物なのか？」という問いかけをコンセプトに、人の想いにそが創作の素晴らしさであり、人間の素晴らしさであることを伝える作品。

審査員特別賞（二見文子）

4		TOKYO STORIES No.03_TOKYO GREAT WALL
		あいづ
		“首都過剰流入禁止法(通称・鎖都法)”により、東京は巨大な壁「東京壁」によって完全に隔離された近未来の東京。地方出身の 17 歳の少年エイジは、ミュージシャンになる夢を胸に壁を越えた先にある東京を目指す。 かつて世界に実在した“壁”のニュースをきっかけに構想。AI の進化により、個人規模でも高次元の映像表現が可能になったことで実現した、テクノロジーと感情、その境界線を探るオリジナル作品。

審査員特別賞（乙一）	
5	
	PANCAKES
	あいづ カフェで語り合う男女の物語。 本作は、犯罪を赦す物語ではない。トラウマの中に偶然残された小さな救いと、善悪のあいだに横たわる曖昧さを、日常の一場面から静かに描き出す。

審査員特別賞（遠藤久美子）	
6	
	轍 -WADACHI-
	三宅 隆太 平屋の古い一軒家に住む若い日本人女性。その日も、いつもと変わらぬ朝を迎えたはずだったが、どうにもおかしい。昨日と同じことが起きている気がするのだ。これはデジャヴ？ それとも……。やがて、ひとりの不気味な男が彼女の前に姿を現す。彼との出会いが女性の人生を一変させることになる……。

ベスト AI アニメ部門

ベスト AI アニメ賞	
7	
	This is Me
	平田 茉莉花 本作品は、ジェンダーアイデンティティの揺らぎと、社会が求める「分かりやすさ」の乖離を、ファンタジーとリアリズムを融合させた独特の視覚表現で描く短編アニメーション。

審査員特別賞（和田亮一）	
8	
	POSTMAN
	YUUUKI 手紙が消えた近未来。 捨てられるはずだった“一通の手紙”と出会い、理由もわからないまま届ける旅に出る。 これは、効率の時代に置き去りにされた「想い」を取り戻す物語。

審査員特別賞（櫻井大樹）	
9	
	Final Order
	大野 雄一 瀕死の依頼人から依頼を受けた配達員の少女が、子供へ食事を届けようとする物語。 配達の依頼を受けた少女は、急ぎ戦場へとピザを届けに向かう。しかし、たどり着い

		<p>た先で依頼主が最後の願いを残し息絶えてしまう。 少女は、依頼主から託された最後の頼みを受け取り、今度はその子供へと食事を届ける決意をする。</p>
10		<p align="center">審査員特別賞（齋藤優一郎）</p>
		<p>ハナと不思議な冒険 / Hana's Mysterious Adventure テレビ朝日インターネット戦略局</p>
		<p>転校してきた小学生のハナは、クラスに馴染めず、本音を言えないまま孤独を感じていた。ある日、森で拾ったキツネ型ロボットをきっかけに、七色に光るゲートをくぐり「不思議な国」へ迷い込む。そこで出会ったのは、鼻が雲の上まで伸びて動けなくなった大天狗だった。</p> <p>想像力と勇気が、世界を少しだけ変える物語。</p>
11		<p align="center">審査員特別賞（二見文子）</p>
		<p>毎日が彫り DAY 木村 修一</p>
		<p>“やっちゃん”こと主人公やすこは幼い頃、父と通った銭湯でヤクザの親分と出会いその背中の刺青に魅せられたことで、大阪のとある下町でタトゥーショップを営んでいた。そんなある日、予約客のギャルが連れと二人で訪れ彼氏の名前を掘ろうとするのだが・・・</p> <p>日本ではまだ世間的に理解の乏しいタトゥー。そんなタトゥーをあえて入れる意味や決意を面白おかしく問う人情コメディ。</p>
12		<p align="center">審査員特別賞（乙一）</p>
		<p>To the Thanaton Thanatos River K.Imayui</p>
		<p>「タナトタナトス川」という名の、存在すら確かでない場所へ向かう旅の断片的記録。</p> <p>療養中に描かれた絵やメモをもとに、記憶・風景・空白を再構成した映像詩。</p>
13		<p align="center">審査員特別賞（秦建日子）</p>
		<p>たまごやき / OMAKASE 松田 華凌</p>
		<p>信じていた男性に裏切られ、復讐を願う女性が、世間で話題の万能 AI にその方法を相談する。しかし AI は倫理的な正論を繰り返す、彼女の求める回答を拒否し続ける。</p> <p>しかも、次第に AI のアドバイスはナンセンスで的外れなものばかりになり、女性の苛立ちと失望は深まる一方だった。</p>

14	審査員特別賞（遠藤久美子）	
		憎神様 / NIKUKAMI
		ANON
<p>その昔の“日本のような国”が舞台の物語。世の中では争いが絶えず、ある者は生きる為に、ある者は守るために人々は争い、憎しみの広がりとはどまることを知らなかった。そして、その憎しみの連鎖の中で「憎神様」と呼ばれる一つの存在が誕生した。</p> <p>この物語は、少女と憎神様の邂逅と葛藤を通じて、最終的に両者の憎しみの気持が昇華される過程を描いたものである。</p>		

ベスト AI Pocket Anime 部門

ベスト AI Pocket Anime 賞		
15		ロスト・トイ・レクイエム
		石原 健二
		目覚めるとそこは、汚れた廃墟のエレベーター。妹を人質に取られた兄のぬいぐるみは、3つのフロアに潜む「主」たちから鍵を奪い取らなければならない。ショート形式で描かれる、手に汗握る脱出ミッション。

審査員特別賞（和田亮一、遠藤久美子）		
16		ZIN: The Origin
		WAKA WAKKA
		15歳の誕生日に覚醒したのは、英雄の力ではなく「悪魔の支配」だった。日常の崩壊からダークヒーローとしての覚醒までを描くオリジン・ストーリー。Phonk ミュージックと環境音（ASMR）を緻密に組み合わせ、スマートフォンの縦型視聴における「没入感」と「カタルシス」を追求した AI アニメーション作品。

審査員特別賞（齋藤優一郎）		
17		こじらせ怪異 / Awkward Monsters
		冥土川 メイ
		現代社会にひっそりと、しかし等身大に存在する「怪異たち」の日常を切り取ったショート動画シリーズ。

審査員特別賞（二見文子）		
18		グミぼよ
		和田 亜海
		グミぼよワールドは、グミの袋の中に広がる小さな世界。袋が開くと空が裂け、巨大な“あれ（人間の手）”が干渉してくる。

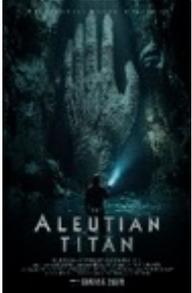
		<p>袋の外に出たグミたちは声も動きも封じられ、ただの“お菓子”になる。それでもグミたちは、そんな干渉も含めて、毎日ゆる〜く生活している。 そこで生活するグミぽたちの日常を描いたショートアニメ。</p>
--	--	---

ベストシノプシス + AI ティザー部門

ベストシノプシス + AI ティザー賞

19		<p>Samurai Egg 中谷 学</p> <p>卵たちが暮らす惑星で繰り広げられる、痛快サムライ・アクションコメディ。未熟なサムライが世界を救う旅の中で「ハードボイルド」な英雄へと成長していく物語。 制作は、元ドリームワークスのCGスーパーバイザー・中谷学が率いるG3 Pictures。次世代ワークフローにより、高品質なビジュアルと制作の効率化を高度に融合させた、AI時代の新しいアニメーション表現。</p>
----	---	--

審査員特別賞（和田亮一、櫻井大樹）

20		<p>THE ALEUTIAN TITAN KHAOS COMPOSITION</p> <p>アラスカ州アリューシャン山脈。突如出現した巨大空洞の調査に向かった第7偵察中隊 141 名は、その内部で忽然と姿を消した。現場に残された不穏な音声記録と、10 日後に発見された無人の機体——。 「極秘記録」という体裁で描かれる SF ミステリーのティザー映像。</p>
----	--	---

ベスト AI CM 部門

ベスト AI CM 賞

21		<p>SWETOS THE ONE AI LAB.</p> <p>スポーツドリンク「SWETOS」のCM。 ヒトと動物たちが陸上競技で頂上決戦を繰り広げる。速さでも、力でも、敵わない。それでもヒトが勝てる種目はあるのか。フル AI 映像で描く、種を超えた直接対決。ヒトに残された、たったひとつの武器とは——。</p>
----	---	--

AI CM Freedom Ramen 賞

22		<p>The Bowl That Changed the World 世界を変えた一杯 -FREEDOM RAMEN-</p> <p>あぎ</p> <p>薄暗い村。雷鳴。3 匹の鬼が現れ、村人が逃げ惑う。 村を襲う 3 匹の鬼を止めたのは、刀でも魔法でもなく、たった一杯の FREEDOM RAMEN だった。 村人と鬼が焚き火を囲む。This alone can change the world / これだけで、世界は変わる。</p>
----	---	---

審査員特別賞（遠藤久美子）

23



YUMEOCHI -Falling Nightmare-

菊地 優奈

人種や国を選ばず、誰しもがうなされた経験を持つ、悪夢。“身体に合わない枕は、浅い睡眠や悪夢をみる原因になる”というファクトを用いて、多くの人が見たことがある“落下する悪夢”を POV 視点で描いた枕の CM。

映画祭概要

- ・イベント名：WORLD AI FILM FESTIVAL 2026 in KYOTO（読み：ワイフ 2026 キョウト）
- ・公式サイト：<https://worldaifilmfestival.jp/>
- ・日本語 SNS (X, Instagram) ID：@waiff_japan ハッシュタグ：#waiffjapan
- ・日程：2026年3月12日（木）-13日（金）
- ・会場：ロームシアター京都 サウスホール（〒606-8342 京都府京都市左京区岡崎最勝寺町 13）
- ・主催：WAIFF JAPAN 実行委員会
- ・作品応募の仔細（公式サイトより）：<https://worldaifilmfestival.jp/>

メディア向け提供素材

https://drive.google.com/drive/mobile/folders/1LR6EhSvXXYXpxWJ9oVQgrfAN8oFvJ_J3?usp=sharing

・コピーライツ表記：© WORLD AI FILM FESTIVAL 2026 in KYOTO

受賞作品画像：<https://32.gigafile.nu/0319-i1c88c7e8ec92ff2bbe71a0fdbda22f58>

・コピーライツ表記：© WORLD AI FILM FESTIVAL 2026 in KYOTO

メディアの皆様へのご案内

今後、映画祭の仔細を随時ご連絡差し上げます。また、実施に向けての取材の希望なども随時受け付けてまいりますので、ご協力のほどよろしくお願い致します。

お問合せ

作品に関するお問い合わせ：info@worldaifilmfestival.jp

宣伝に関するお問い合わせ：フリーストーン高松・永松（fsp-pr@freestone.jp）

紙媒体：星貴子（090-6120-8733 atk.hoshi@gmail.com）

電波：山口紅子（090-3477-1206 beniko.yamaguchi@gmail.com）

ウェブ：永松貴子（takako.nagamatsu@freestone.jp）

WAIFF JAPAN 実行委員会：東京都中野区本町二丁目 46 番 1 号中野坂上サンブライトツイン 14 階
（主幹事会社：株式会社 TOKYO EPIC 事務所内）